

鴟尾の魅力

令和 4 年度 京都市指定文化財「洛北窯跡出土鴟尾」によせて

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



写真 1 令和 4 年度京都市指定文化財「洛北窯跡出土鴟尾」

はじめに 写真 1 に写っているものはなんだと思いますか？「焼き物の破片？」「多量の廃棄物(笑)」などなど、様々な声(回答)が聞こえてきそうです。「当たらずといえど遠からず」と言ったところでしょうか。実は・・・これらの破片は京都市指定文化財美術工芸品(以下、指定文化財)に登録された平安時代初頭の鴟尾(瓦製)の破片なのです。「え！これが指定文化財なの？」「そもそも鴟尾ってなに？」と、次は疑問の声が聞こえてきそうです。確かにこの写真を眺めていても、鴟尾がどのようなものなのかわかりません。そこで、今

回は指定文化財になった平安時代の鴟尾についてお話しします。

鴟尾とは 鴟尾とは仏殿や宮殿の屋根頂部の水平部分おおむね(大棟)両端を飾る瓦の一種です(写真 2)。大棟の両端が高く反り上がると建物が立派に見えることから、古代

中国で考案されました。もちろん、瓦の一種であることから、棟の端を覆うことによる防水機能もあります。鴟尾の使用は朝鮮半島を経由して、飛鳥時代に日本へ伝わり、寺院の中でも重要な建物を飾っていました。その後は、宮殿(平



写真 2 平城宮第一次大極殿(復元)

城宮・平安宮など)にも使用されるようになりますが、ここでも中心的な建物に限られていたようです。今回の鴟尾は、平安宮内で使用するために製作されたものです。

平安時代の鴟尾 鴟尾の概要がわかったところで、いよいよ指定文化財の鴟尾を見ていくことにします。写真1の破片は元々図1のような4種類の鴟尾でした。1～3は背面が屈曲して頂部が突出した、蹴鞠に使用する「沓」をひっくり返したような形をしています(以下「沓形」)。一方、4は2個体の「沓形」を接合した特徴的な形をしています。鴟尾は1～3のような「沓形」が基本の形であることから、4は特殊な鴟尾だといえます。

次に胴部の装飾を見ていきましょう。1には鳳凰と唐草が彫刻されています。古代中国の伝説上の瑞鳥である鳳凰は、実物の猛禽類を参考にして詳細な部分まで写実的な、吉祥紋様である唐草は、仏教美術に見られるような流麗な表現です。2・3は装飾がありません。

大きさはどうでしょうか。1は高さが約180cm、奥行き約130cmに復元することができ、指定品の中で最大規模を誇ります。2は高さが約150cm、3は高さが約90cmあります。このように、形や装飾、

大きさが異なる複数の種類の鴟尾が製作されたのはなぜでしょうか？

絵巻の鴟尾 その答えを知るヒントが、平安宮で執り行われた儀式の様子を描いた『年中行事絵巻』にあります。絵巻には儀式の様子とともに建物が描かれています。建物の屋根をよく見ると、両端に鴟尾が描かれていることに気が付きます。ここで注目したいのが、建物の規模によって描かれている鴟尾の様相が異なることです。宮内で最大規模を誇る大極殿には2に類似した鴟尾(図2)、やや規模の小さい建物(小安殿)や門には3に類似した鴟尾(図3)、回廊(廊下)の屈曲する部分には特殊な形態の4に類似した鴟尾(図4)が飾られています。つまり、建物の大きさや格付け、屋根の形状に合わせた鴟尾が作られ、使い分けられていたことがわかります。

また、大極殿と同様に重要施設である豊楽殿の棟の端が、1に類似する鴟尾によって飾られていたことが、発掘調査によって明らかになっています。したがって、平安時代初頭は、1も格式の高い建物の屋根を飾るために製作された鴟尾だったと考えられます。

おわりに 最後に、これらの鴟尾が指定文化財に選ばれた理由に



図2 大極殿鴟尾(『年中行事絵巻』)



図3 小安殿鴟尾(『年中行事絵巻』)



図4 大極殿回廊鴟尾(『年中行事絵巻』)

についてお話しします。

指定された鴟尾は、平安京に都が遷された時の宮殿の姿や建造物の屋根構造を復元するうえで必要不可欠な資料です。また、平安時代初頭の鴟尾の製作技法(工程)の復元や生産・供給体制を考える際の貴重な資料でもあります。このようなことが評価され、令和4年度に鴟尾の破片673点が指定文化財となりました。

さて、皆さんには鴟尾の魅力が少しでも伝わりましたでしょうか。京都市では膨大な出土遺物の中から、特に歴史的価値の高い文化財を指定文化財として保護・活用しています。引き続き国民共有の財産である文化財を未来に伝えていきたいと思っています。

(京都市文化財保護課 鈴木久史)

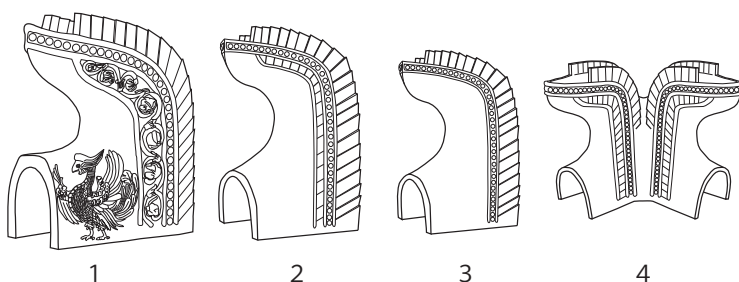


図1 平安時代初頭鴟尾復元概念図